



みんなが主役 豊岡小

大 楓



令和3年3月25日No.11
銚子市立豊岡小学校

祝・ご卒業

3月19日（金）、銚子市教育委員会教育長 石川善昭様、6年生保護者の皆様ご臨席の下、豊岡小学校145年の歴史を締めくくる卒業証書授与式が行われました。来賓のご臨席の制限もあり、昨年度に引き続き簡素な式となりましたが、卒業生、在校生ともすばらしい態度で式に臨みました。卒業生の皆さんには最後の卒業生としての誇りと自信を持ち、たくましく歩んでほしいと願います。



閉校式、感謝の集い、除幕式開催される！

3月20日（土）、銚子市主催の閉校式が挙行されました。児童、保護者、教職員の他、主催者の銚子市からは銚子市長、副市長、銚子市教育委員会教育長、教育委員、ご来賓として千葉県議会議員、銚子市市議会議員長、副議長、豊岡地区教育後援会長及び理事など、コロナ禍で制限されつつも、多くの方にご来校いただきました。児童代表挨拶、校長挨拶を裏面に掲載しましたので、ご覧ください。

閉校式に続いて、本校主催の感謝の集いを行いました。感染予防のため、画像・動画で子どもたちの豊岡小学校への思い、感謝の気持ちを伝える形となりました。最後に実際にくす玉を割りました。



感謝の集いに続いて、地域の皆様のお力で建立いただきました閉校記念碑の除幕式を行いました。来賓の皆様皆様にお手伝いいただいた除幕の後、閉校記念事業実行委員長鈴木武雄様にご挨拶をいただいた後「ありがとう豊岡小」の声で、記念のバルーンリリースを行いました。とても印象に残る式となりました。保護者の皆様にはいろいろとお手伝いいただき、ありがとうございました。



3月20日閉校式から、児童代表挨拶、校長挨拶を掲載します。

さみしさの中で

ぼくは昨日、この場所で校長先生から卒業証書をいただき、卒業しました。昨日も緊張しましたが、今日のほうがより緊張します。

今日は児童会長として皆さんの前で話す最後の機会です。ぼくの気持ちがみなさんに伝わればいいと思います。

今、思い返すと、6年間は本当にあっという間でした。入学したてのときは登校前に泣いたこともありました。学校へ行くのが不安だったのです。それから、たくさんの上級生、先生方、下級生とともに毎日たくさんの思い出を作るなかで、不安はなくなり、楽しくなりました。全校のみんなで遊んだグラウンド、仲間と歌った音楽室、初めて入るとき緊張した保健室、本がたくさんある図書室、実験が楽しかった理科室、この校舎には、どこにもぼくたちの思い出があります。一緒に遊んだ友達、お世話になった先生方、この豊岡小で出会ったたくさんの仲間たち、かけがえのない思い出です。

閉校は、あっという間に決まりました。そのことを知ったとき、信じられませんでした。学校がなくなることが想像できなかったからです。

しかし、すぐにもっと想像もしていないことが起こりました。感染症の世界的流行です。いきなり休校。大荷物を抱えて帰り、家で一人、勉強する事になりました。学校が再開しても日常は戻ってきませんでした。前を向いて無言の給食、運動会・部活動の中止、鎌倉への修学旅行もなくなりました。思い出をつくる行事は正直かなりなくなっていました。仕方ないとは分かっていたのですが、とても悲しかったです。

しかし、そんななかでも全校でのふれあいタイムでは鬼ごっこをしたり、ドッジボールをしたりして遊びました。対策をしっかりと、全校あるき遠足もかえで集会も行なうことができました。去年はできなかった、6年生を送る会もお別れ会と一緒に開催することができました。今年も特別に全校での鴨川シーワールドへのバス遠足もありました。

制約の中でも、ぼくたちは笑顔でした。「学校へ通えることは当たり前ではない」鈴木監督から、戦争のときも修学旅行に行けなかった話を聞いたとき、そう思いました。長い歴史の中にぼくたちと同じように色々と制限があった時期もあったのです。

この校舎には百四十五年分の昔子供だった人たちの思い出が刻まれています。この後、この校舎がどうなるのかわかりませんが、ぼくたちの母校を取り壊さないでほしいです。

終わりに、今はただ、閉校するということが、本当にとても、とても悲しく、そして、とてもさみしいです。いまだに信じたくない気持ちです。しかし、この学校で出会った人たち、つくった思い出は決して消えませんが、決して忘れません。ぼくたちはそれぞれの場所に別れるけれど、この豊岡小はいつまでもぼくたちのふるさとです。

みなさんも、この豊岡小が閉校しても、忘れないでください。

ありがとう豊岡小。

令和3年3月20日

児童代表 遠藤大雅
(令和2年度 児童会長)

ご挨拶

銚子市立豊岡小学校のシンボル、明治43年、1910年に寺内から移植され、110年。その110年の間、現在の地で枝を張り続け、子どもたちを見守った豊岡小のシンボル。命、つきともその堂々とした立ち姿、樹齢300年の大楓が見守る中、公私とも、ご多用のところ、多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、銚子市立豊岡小学校閉校式を挙げて心より感謝申し上げます。

また、主催者であります銚子市長 越川信一様をはじめ、銚子市教育委員会の皆様には、本校の閉校にあたり、物心両面から、これまでも丁寧なご支援をいただき、こうして本日を迎えることができましたこと、校長として厚く御礼を申し上げます。

明治5年の学制の公布を受け、明治9年11月、「第一大学区第二十七番中学区七十五番八木小学校」と称し、本校は開校しました。以来、幾多の校名の変遷を経て今日に至りました。

歴代の校長が書き記した沿革誌をひもとくますと、創立当時から、地域の皆様の多大なる御支援、御協力にて、豊岡のすばらしい教育が成り立っていたことがわかります。

有志による義援金での校舎の新築・増築、講堂の新築、記念碑の建立、プール建設、観察池の造園、樹木の移植(サクラ・カエデ)、土地・畑地の無償提供及び教材・教具の御寄附等、その内容に驚くとも感謝の念に堪えません。また、このような基盤故に、優れた教育が施され、有為の人材を多く輩出してきたことと拝察いたします。

夏祭り、大運動会に代表される地域と学校が一つになったの学校行事の開催、そのよき伝統と校風は地域の皆様によって145年経ても、脈々と今日まで伝わりました。

しかしながら、在籍する子どもたちの減少という厳しい現実から閉校が決定されました。これまでの小学校としての役割、歴史の重さ、卒業生・地域の皆様の本校への心情を想察すれば、残念さ、寂しさを抱かざるを得ないところです。

さて、卒業生・在校生のみなさんに申し上げます。皆さんは、今お話ししました豊岡小の伝統を、しっかりと受け継いで育ちました。広い心で考え、明るく素直な、清らかな心を持ち、瞳を輝かせ、学習や行事ができることを喜び、まるで兄弟姉妹のように学校生活を楽しく過ごしました。だからこそ、コロナ禍で様々な制限がある中でも、それに負けずに学校生活を過ごすことができたこと、私は判断します。これから、皆さんの学ぶ地は変わりますが、どんな場所でも、地域を愛する心、ふるさと豊岡を愛する心願いを失わず、しっかりと学び、歩んでほしいと願っています。「ふるさと豊岡」を皆さんが愛し続けることを願っています。

結びに、145年の歴史、明治・大正・昭和・平成・令和とそれぞれの時代、それぞれの時、豊岡小学校を守り支えてくださいました地域の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様他、すべての関係者の皆様に深く感謝の意を表しますとともに、これからの地域のますますのご発展とご多幸をお祈りいたしまして、閉校の挨拶といたします。

令和3年3月20日

銚子市立豊岡小学校長 古田一義

